**演習１５（Step15　自動実行マクロ）**

Ex15.xlsmにはStep07で作成したコイントスと、Step12のジャンケンゲームをベースに２つのユーザーフォームが組み込まれています。このファイルを開いたとき、以下の条件によって、どちらか一方のユーザーフォームが表示される自動実行マクロを作りなさい。

　　　今日現在が偶数日　　　UserForm1（じゃんけん・ゲーム）

　　　今日現在が奇数日　　　UserForm2（コイントス・ゲーム）

なお、今日現在は、コンピュータ内部のカレンダーから、

　　　＝Day(Date)

として日を取り出して、奇数偶数かを判定することができます。また、

　　　午前　　　　　　　　　UserForm1（じゃんけん・ゲーム）

　　　午後　　　　　　　　　UserForm2（コイントス・ゲーム）

というように時間で切り替えるためには、コンピュータ内部のカレンダーから、

　　　＝Hour(Time)

というように時間を取り出して判定することができます。

**演習１５（Step15　自動実行マクロ）ヒント**

**（１）WorkBookに対するイベントプロシージャの挿入**

　ここでは、既に2つのユーザーフォームが登録されていますから、あとは、WorkBookに対するイベントプロシージャを登録すれば完成です。ところで、Step15の例では、WorkBookに対するイベントプロシージャとして、ShowやQuitといった特殊なメソッドだけが使用できるように見えますが、他のプロシージャと同様に、計算、判断、表示することができます。つまり、WorkBookに対するイベントプロシージャも他のSubプロシージャと同じだということを確認する課題です。

　ここでは、条件によって、呼び出すユーザーフォームを変えるという判断を自動実行マクロに組み込もうというわけです。

条件

UserForm2.Show

UserForm1.Show

Yes

No

　もちろん、WorkBookに対するイベントプロシージャにおいてもif文を使用することは可能です。